

岡山県で初発見のチョウセンキハギ



チョウセンキハギ *Lespedeza maximowiczii* はマメ科の落葉低木です。秋の七草のハギ（萩）の仲間で、夏から秋に濃い赤色の花を咲かせます。朝鮮半島（韓国、北朝鮮）と中国、日本に分布し、日本では長崎県の対馬のみに自生が知られます。個体数が少ないと推定され、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に位置付けられています。

近年、対馬にしかないはずのチョウセンキハギが日本各地で見つかっています。岡山県においても、2023年に私が新見市で発見したものを倉敷市立自然史博物館研究報告第40号にて県初記録の植物として報告しています。

対馬以外の日本各地で見つかっているチョウセンキハギは自生のものではなく、人の手で持ち込まれたもの、すなわち外来生物の可能性が高いと考えられています。岡山県のチョウセンキハギも、中国などが原産のハナハギやキダチコマツナギ、ニンジンボクなどと一緒に道路沿

いの人工的な環境に生えていたことから、海外（中国）から輸入された緑化用種子から発芽したものと推測されます。チョウセンキハギは自生の限られる絶滅危惧種でありながら、外来生物としての側面もあわせ持つ植物なのです。

現在、当館では未公開の収蔵標本をご紹介します「倉敷市立自然史博物館秘蔵お宝展第3弾」を開催しています（8月24日まで）。新見市で見つかったチョウセンキハギの標本（写真）も展示していますので、ぜひご覧ください。

鐵 慎太郎(植物担当)

パオちゃん's EYEに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp



「パオちゃん's EYE」
は博物館ホームページでカラーで見られるよ！

